



人事の実務的・実践的な課題解決にフォーカスした

人事実践セミナーのご案内

現在、日本CHO協会には、人事担当の取締役・執行役員から、人事部門の部長・課長層、ダイバーシティ推進の責任者・担当者まで600名を超える人事パーソンが会員登録されていますが、人材開発・人材育成を主に管轄・担当される方が多数いらっしゃいます。

今回のセミナーは、これからの時代に求められる「人材開発」をテーマに、人材開発のエキスパートを養成するプログラムとしました。講義だけでなく、参加者同士がダイアログでお互いに学び合う交流型プログラムですので、奮ってご参加下さい。

参加を希望される方は、裏面の申込書に必要事項を記載の上、お申込み下さい(入会金・年会費・イベント参加費無料)。

2017年7月次プログラムのご紹介



人材こそが競争力の源泉となる時代！ これからの「人材開発エキスパート」とは？

トーマツ イノベーション株式会社

人材戦略コンサルティング第二事業部 副事業部長 高橋豊氏

日時：2017年7月18日(火) 14:00～18:00

場所：パソナグループ 新本部ビル内研修室(*) *5月から新社屋に移転しますので、会場の詳細は後日、参加者の皆様にご連絡致します。

メッセージ

「人材育成は自社における最重要な課題である」として、多くの経営者や管理職が解決すべき重要課題に挙げています。これは、この10年間変わりません。競争がこれまで以上に激しくなっており、競争力の源泉が、競争に打ち勝つための製品やサービスを創る、売る、顧客をサポートする「人材」になってきたからです。

一方、人材育成は大きく変化しています。ここ数年間に思いもよらない技術や製品、商品、サービスなどが次々に生まれています。この流れは、今までの知識や仕事の進め方の大変革を伴っており、必要とされる人材育成の目的や、求められる人物像、人材育成手法などが、大きく変化したからです。

その結果、人材育成担当者が、人材育成の「成功の鍵」を握ることになりました。それは人材育成担当者が「世の中や自社を取り巻く変化」を俯瞰して把握し、「お客様からのニーズがどのように変化していくか」を洞察した上で、求められる人物像を明確にしないと、人材育成は計画できないからです。加えて、現場の状況を的確に把握し、人材育成に関する課題を洞察し、細部まで見分け、「ビジネスパートナー」として行動することが求められるからです。

しかし残念ながら、人材育成担当者のあるべき姿を提示できている企業はほとんど存在せず、担当者の経験や勘、自己研鑽に頼っているのが実態ではないでしょうか。

本セミナーでは、企業の人材育成・学習に関わる様々な理論やトレンドをご紹介します。加えて参加された皆様が、各々の企業が直面する課題や今迄の取り組みの失敗原因を、ダイアログを通じ理解する機会をご提供致します。皆様が人材開発エキスパートとしての第一歩を踏み出す一助となれば幸いです。

プロフィール

大手建設会社、大手電気メーカー子会社で、主に人事部門にて教育・研修及び採用業務に従事。その後、日系コンサルティングファームにて組織風土変革と組織マネジメント革新、経営者及び管理職のコーチングを主に担当。その後、トーマツ イノベーションに入社し現職。

《コンサルティング経験》

人材育成・組織開発分野全般にわたり、IT産業・製造業の大企業から中堅企業を中心に、コンサルティング業務に従事。500社以上の企業に対するコンサルティング・研修実績がある。

《コンサルティング&研修分野》

※下記テーマを中心に、経営層から新人層までを対象とした業務を行っている。

- ・組織診断/組織開発(ダイバーシティマネジメント・組織風土活性化・コミュニケーション活性化)
- ・パフォーマンスマネジメントの定着/知的生産性向上
- ・人材育成体系・組織開発の仕組みの構築
- ・管理職のマネジメント力・リーダーシップ向上コーチング
- ・システム開発プロジェクトのプロジェクトマネージャーコーチング など

《著書》

『場のマネジメント実践技術』(共著)
東洋経済新報社

